

2023 年度事業報告

社会福祉法人カメラリア

2023年度 事業報告

社会福祉法人カメラリア

1. 2023年度の総括

当法人は乳幼児や児童に係る事業を中心に据え、2024年3月現在で児童心理治療施設1施設、幼保連携型認定こども園1施設、保育園3施設、小規模保育事業5施設、放課後児童健全育成事業4施設、共同生活援助グループホーム1施設の15事業所を運営。

2023年度は新型コロナウイルス感染症の分類変更に伴い、コロナ禍で中止や縮小を図ってきた様々な活動においても、利用者や職員の声を反映させながら、再開或いは新たな取組みとして実施してきた。入所型の児童心理治療施設とグループホームでは、事業所の特性から利用者や職員の感染対策は緩和しながらも継続し、事業所内での感染拡大防止を図っていった。また、不適切保育を含む利用者の処遇に関する社会的な動向を踏まえ職員の資質向上を図る職員研修を法人全体で実施し、加えて余裕のある職員配置を目指した採用を進めた。一方で不適切な関りに繋がるような事案も発生し、事業所内で留めることなく関係機関にも報告や相談をしながら、課題分析や再発防止に向けての取り組みを行った。

事業運営の面では、児童心理治療施設で年度当初は稼働率の低い状況であったが、年度末には稼働率9割超となった。その一方で、処遇困難な事案に対応する負荷、利用者の抱える入所課題の変化も生じており、事業所全体として職員の配置や育成には課題が残っている。保育施設においては、定員充足をしているように見えるが、2022年度に続き「①0歳児の入園希望減少、②待機児童解消」の傾向は顕著であった。また、職員の育休取得に伴う代替職員の確保ができず、入園希望者の受入れができなかった事業所もあった。大村市の事業所では自閉スペクトラム症等の発達課題を抱える子どもたちの保育ニーズが極めて高く、認定こども園や認可保育園で要支援児の保育に注力し、心理職を活用した専門的な支援も提供し、当法人の強みを活かした取り組みも進めた。大崎市では年間出生数の減少が顕著、市川市では保育事業所の供給過多等といった地域の課題もあるため、今後の運営の在り方を管理者間でも共有を図った。保育施設における利用者数の減少、要支援児の保育ニーズ増加は事業所運営の大きな課題でもあるため、利用者を選ばれるような特色ある事業所を進めていきたい。こうした中、あじさい保育園では自園の取り組みを発表した「ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文」で優秀園に選ばれ、今後も実践を続けたい。また、いちよう保育園では園児の安全確保と不審者対応訓練に尽力している施設として地元警察署から表彰を受け、今後も継続した取り組みを行いたい。人材確保については、実習生の積極的な受入れ、就職セミナー等の参加、在籍職員からの紹介による新規採用等に対する報奨制度を設ける等の取り組みを実施したことで、一定の成果もあげることができた。また、年度内に産休育休取得者16名、有休消化率が78%となっており、安心して休暇取得ができ安定した事業運営となるよう引き続き人材確保を進めたい。人材育成については、事業所内研修だけでなく、外部機関が実施する研修会への派遣、法人全体での職員研修など、オンラインだけでなく対面集合型の研修を増やし、知識や技術の向上だけでなく人材交流を通じた育成も

図った。

施設設備等では、大村椿の森学園の浴室リニューアル、多目的施設の内部改修を行った。多目的施設改修では、専門的な心理プログラムを実施するための構造とし、2024年度から予定している多機能化事業の拠点としても活用を予定している。かめりあこども園では、通園口門扉工事、相談室増設、事務所の一部改修を行った。これまで、保護者面談等の部屋不足が懸念事項でもあったため、相談室増設に伴い円滑は運営に繋がった。また、省エネとコスト削減を目指し、大村市内の全事業所で照明機器のLED化を実施した。また、かめりあ第二保育園では定員変更等に伴い認可保育園として運営するための改修工事を行った。なお、あじさい保育園の屋上防水シート工事は自治体との継続協議となり、2020年7月の大村市豪雨災害による職員駐車場等に隣接する河川の復旧工事は完了した。

財政面においては、事業活動収入は前年比3.8%増、事業活動支出は前年比5.8%増、事業活動収支差額は約1,480万円減の増収減益であった。なお、増収約4,780万円に対し、人件費増加分が約4,760万円であり、ほぼ増収全額が人件費（前年比5.6%増）となっている。人件費率は69.4%となり、前年比1.2%増（支出に占める人件費割合79.1%）となり、職種や地域を問わず増加傾向である。また、収入では各種の処遇改善加算等の増加分による増収となっている面が大きく、保育事業所においては0歳児の受入数減少に伴う実質的には減収が実態でもある。さらに、ガスや電気のエネルギーコスト増、食材を含む物品の値上げも続いていることから、今後は人件費以外の事業費においても支出増が顕著になることが懸念される。さらに、保育士の配置基準引き上げや働き方改革が求められる中では新規採用数を抑制することも難しく、かつ職員の賃上げの検討も必要なため、適切な財政管理と経営判断がより求められる。

2023年	4月	法人合同研修（虐待防止等）
	8月	法人内施設長合同会議
	9月	法人合同研修（対象：主任等）
	10月	大村椿の森学園 多目的施設改修工事 かめりあこども園他 照明機器LED取替
	11月	大村椿の森学園 浴室リニューアル工事（～2024年3月） かめりあこども園 相談室増設、事務所改修工事
	12月	かめりあ第二保育園 改修工事（～2024年2月）
2024年	2月	かめりあこども園 通用口門扉工事

2. 事業所の概要

施設種別	施設名	所在	定員
児童心理治療施設	大村椿の森学園	大村市	55名
幼保連携型認定こども園	かめりあこども園	大村市	190名
保育園	あじさい保育園	市川市	100名
	いちょう保育園	大崎市	90名

	かめりあ天空の森保育園	大村市	105名
小規模保育事業	かめりあ保育園	大村市	12名
	かめりあ第二保育園	大村市	12名
	かめりあ三城保育園	大村市	14名
	かめりあ三城第二保育園	大村市	12名
	かめりあ上諏訪保育園	大村市	12名
放課後児童健全育成事業	かめりあ児童クラブA	大村市	40名
	かめりあ児童クラブB	大村市	40名
	かめりあ児童クラブC	大村市	40名
	かめりあ三城児童クラブ	大村市	40名
共同生活援助事業	グループホーム元気ハウス	大村市	11名

3. 事業所の実績概要

3-1 大村椿の森学園

入所部門の安定を目標に掲げ、日課の意識づけ、分掌表に基づいた職員への役割意識向上、環境整備等には一定の成果をあげた。ヒヤリハットアクシデントによる分析からの業務改善というPDCAサイクルも軌道に乗り始めた。また、トラウマインフォームドケアに根差した関わりを意識し、安全な関わりかつ放置しない関わりを研修でも積極的に伝えた。児童の暴力防止に向けて、限界設定を作ったが、暴力は減ることなく、毎月のようなアクシデントとして発生した。職員の資質向上と働きやすい職場環境づくりとして、接遇を意識した態度やコミュニケーションの強化を図った。多くの課題が取り組み途上にあり、特に児童による暴力については対応困難からの措置解除、男児フロアの集団化を解体するためのフロア再編なども行った。第三者評価を11月に受審し施設の課題と強みを再確認することができた。さらに地域に当園の専門性を活かすための受け皿として、子どもと親の心理支援センターの立ち上げ準備を進めてきた。今後は自治体と連携しながら、地域の乳幼児期への早期介入（心理支援）を行っていく。また、数年来の課題となっていた浴室を大浴場から個別利用に向けたリニューアル工事を行い、入所児童の利便性向上を図った。

3-2 かめりあこども園

園児数は安定的な確保をできた。年度当初には定員割れも危惧していた1号認定についても、上半期には定員を満たす状況であった。また、大村市では要支援児対象の見直しがあり、当初計画を上回る園児が対象となり、同時に加配職員が必要となったため、職員確保には苦慮した。有資格者の常勤での新規採用は難しく、条件付き（午前中のみ勤務・土曜日休みなど）の非常勤職員、子育て支援員や無資格者の採用、又は非常勤から常勤へ移行などで運営した。一方で、年度内の産休育休取得職員が計6名となっており、職員が安心して産休育休取得できるよう、今後も引き続き新規採用には力を入れていく。新型コロナウイルスが5類に移行され、園児や保護者の負担と満足度を考慮し、行事や活動内容等を再編して取り組んだ。また、年度末に実施した保護者アンケート

では教育保育内容について、満足度は高かったものの、担任と話す時間や信頼関係づくりに課題が残った。今後は改築により設置した相談室を活用しながら、保護者との関係構築も強化していきたい。園児から実質的に離れる職員休憩室の設置、休憩室の充実した備品整備、休憩時間の明確化等を図ったことで職員間の交流の場となる等の成果が出始めている。

3-3 あじさい保育園

適切な保育の環境については、自己評価シートを利用し、定期的に保育の振り返りを行うと共に、配慮の必要な園児の対応については、ICTを利用して、行動に対しての対応の在り方を共有、相談できる体制を整えた。また、不適切保育防止に関しては、対応に悩んだ時に、他クラスや主任、園長への相談、ヘルプを依頼できるように取り組んでいった。ノーコンタクトタイムも全クラス複数担任にしたことで、遅番の午前中の利用や休憩中のフォローが可能となり、クラス間の差はあるものの一定の成果につながるような取組みとなった。園児確保については、保育の質、職員の負担軽減に重きをおいたため、前年度より減となり、次年度への課題となった。園内研修で取り組んだ実践を

ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文募集に応募したところ、優秀園に選ばれ、今後も園の特色の1つとして実践を続けたい。

3-4 いちょう保育園

選ばれる園としての取組みでは、内外部への取組みに力を入れた。内部強化では、保育の質とリスク・危機管理に対し、職員と共に計画を見直し立案をした。各計画の重要性を意識づけ、共通理解を図ったことで、方向性を再確認する機会となり、次年度は計画の定着を目指し、指導をしていく。保育内容では、新型コロナウイルスが5類へと移行したことに伴い、マスク着用や保育活動の制限を徐々に緩和したことで、園児の感情の起伏ではない、自己表現として見える表情・関わり・遊び方が啓かれた。興味から広がる園児の声を大切に保育者間で共有しながら、保育を進めた。保護者支援では、初めて個別面談の機会を設け、面談希望13世帯に対し実施した。園児の姿に対する情報交換に留まらず、家庭の子育てに対する考え方を知る良い機会となり、家庭と園で連動した促しへと繋がっている。更に、年長児家庭では、就学に対する不安が多く聞かれていた。そのため、周辺小学校へ園児と共に出向き、児童の交流会や授業見学を実施することで、園児に対し小学校の雰囲気を感じてもらえる機会を設けることができた。例年よりも園児と保護者・園・小学校とが連動できたことで、具体的な情報交換へと繋がったため、継続していきたい。職員の育成では、選ばれる園としての取組みの中の内部強化を取り入れたことが、職員の意識を変え、お互いの保育に対し発言する躊躇が減り、目を向け、声をかける姿が増えた。更に、法人研修としてCARE研修を受講したことをきっかけに、子どもが主体となる声掛けを職員が継続して実施できている。

3-5 かめりあ天空の森保育園

クラス単位での活動だけではなく、縦割りでの定期的な活動、行事等の際に子ども達との話し合いを行う等、主体性を育むような取組みを積極的に取り入れた。また、10名超の要支援児を受け入れる中で、一人ひとりの発達を知り、すべての園児が可能な限り一緒に取り組める活動をその都

度検討し実践を図った。要支援児への適切な対応を学ぶ機会として、法人内の専門職（臨床心理士、公認心理師）からのスーパーバイズ、関連法人の児童精神科医による園内研修も行った。また、当園の特徴でもある自然を肌で感じ遊びの中で学ぶという点では、地域の動物を飼育されている方との交流を実施した。さらに、連携施設（かめりあ上諏訪保育園、かめりあ三城保育園）からの進級に向けての取り組みとして、交流活動を実施した。食育では活動の様子、行事食の紹介や年齢別の食事の必要摂取量など分かりやすくした保護者向け動画を積極的に配信した。保護者連携においては、子育て等の個別相談が9件であった。発達相談では大村椿の森学園の心理士による専門プログラム（親子相互交流療法）を実施したケースもあり、子育て不安の改善につながった。一方、不適切な保育に繋がる事案も生じており、園全体で取り組むべき課題と捉え、不適切保育防止チェックリスト確認や外部講師によるアンガーマネージメント研修、職員の配置改善に向けた雇い入れも行い、再発防止に努めた。

3-6 かめりあ保育園

園児数は4月を13名でスタートし、年度末に15名となった。保育内容の見直しについては、一斉に行う製作活動から、一人ひとりの成長発達に応じた製作活動をすることで、個性溢れる作品となった。こうした取り組みは一斉保育に慣れ親しんでいる保育士にとっては困惑することもあるが、こども主体の保育を展開することを目指すため継続的な取り組みとしていきたい。保護者支援については、子育てに不安や悩みを感じている保護者に寄り添い、子育てに自信が持てるように働きかけを行うことができた。安全対策において、建物の劣化による自動ドアの不具合によって園児が指を挟むこともあった。大きな怪我には至らなかったが、安全チェック表を活用しながら今後も環境の整備に努めていきたい。職員研修の充実においては、特に虐待防止研修、不適切保育の研修に力を入れ、職員一人ひとりが自身の保育を見つめ直す機会を設けたことで、こどもに対する声のかけ方や対応の仕方にも変化し、質の高い保育を提供できるようになった。

3-6 かめりあ第二保育園

園児数は年度当初に0歳児の入所がなく、1.2歳児10名でスタートした。0歳児は9月末までに4名の入所となり、年間平均入所率は104%だった。保育士の働き方に余裕を持たせるため、常勤保育士を募集するも1年間応募がなく、非常勤保育士、非常勤子育て支援員を増員し充足を図った。新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、隣接するかめりあ保育園との積極的な交流活動も再開し、行事のみの交流ではなく普段の活動を一緒に行うことができた。連携施設（かめりあこども園）との情報共有を行い、園児が安心して参加できる保育を行うことができた。また、法人内の事業所の職員交流を図ったことで、参加職員から保育内容や保育環境の見直し等について、積極的な意見があり、自園の保育について見直すことができた。園内研修を定期的実施し、全職員が研修を通して自分の保育を振り返る機会を確保し保育の質の向上に努めた。特に、看護師が講師となり「嘔吐処理の仕方」を実践した研修では、実際の場面を想定して取り組むことで緊急時の対応についても学びを深めることができた。

3-7 かめりあ三城保育園

年度当初は14名でスタートし、8月以降には16名となった。職員数も十分に確保できており、一人ひとりに応じたきめ細かい保育を実施できた。また、日常的に園外保育を計画しており、横断歩道の渡り方や誘導の仕方等の安全面に配慮した取り組みを図った。新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、必要な衛生管理対策は継続しつつも、できるだけ通常保育に戻していった。また、保護者支援では成長発達等が気になる園児について職員間で共通意識を持ち、課題や現状についても保護者と共有しながら不安や悩みの解消につなげた。職場環境の整備として、休憩場所とノンコンタクトタイム(事務)のスペースを分けたことで、休憩室を積極的に利用し、適切な休憩とノンコンタクトタイムの確保につながった。

3-8 かめりあ三城第二保育園

新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、職員もマスクを外して保育を行った。園児と職員が同じ給食を同時に食べ、互いの表情や口元が見えることで、食育にも効果あった。保護者参観では給食試食会を実施したことで、味付けや家庭での食事のことなど情報交換でき、管理栄養士による講話を通し、園の食育について理解を深めてもらうことができた。

職員の入退職はあったが、入職者に丁寧に職務内容を知らせることで、早い段階で即戦力となり、安定した保育が提供できた。リーダーを中心に保育や行事を進めることができ、園内研修では、救命救急法や研修報告だけでなく、不適切保育や発達支援マッサージについても学びを深めることができた。知識を得ることに加え意見交換をすることで、日頃の保育に対する姿勢にも変化が出てきた。安全面から窓の開閉を制限していたが、室内側に柵を設置する工事を行い、保育環境の充実につながった。

3-9 かめりあ上諏訪保育園

4月は1、2歳児で定員12名を満了スタート。6月より0歳児の入園希望があり7月には3人目の0歳児が入園し定員120%に到達した。働きやすい環境整備では、保育士等の休息時間の確保として休憩室を利用したくなるような空間の整備や選べる休憩場所を設けた。また、有休取得率は94.3%となっているが、賃上げにより非常勤職員(扶養範囲内)の実質労働時間の減少も予想されるため、働きやすい環境整備として職員確保も必要になる。連携施設(かめりあ天空の森保育園)との交流は大きな行事だけでなく、日々の保育活動を共にする中で保育の質を高めていくような取り組みを行った。また、法人内の事業所の職員交流では、感染症対策や職員不足から計画を一部変更して実施することになった。

3-10 かめりあ児童クラブA、B、C

新型コロナウイルスの感染はありながらも学級閉鎖等の大きな感染拡大は減少し、放課後児童クラブも基本的な感染対策をしながらではあるが、行事等も制限されることなく実施した。児童数については、例年通り30名程度の児童が新規入所し、ABC合わせて88名での開所となった。年度当初の5月に6名の退所があり、いずれも家庭の事情とのことだが、例年には見られない時期と退所数となり、年度末までに計12名減の76名となった。施設内行事等はコロナ禍前の状況とほぼ変わらずに季節の行事なども実施することができているが、戸外活動や公共施設の利用について

はコロナ禍前の状況までは実施できていない。また、職員確保として、長期休業中（夏休み等）の2名の学生アルバイトを採用することで安定した職員体制に努めた。また、不適切な対応に繋がる事案も生じており、虐待防止や健全育成を図るため、職員全体の資質向上を目指し、急遽、虐待防止やアンガーマネージメント、CAREプログラムなどの研修を行った。

3-11 かめりあ三城児童クラブ

新型コロナウイルスの感染はありながらも学級閉鎖等の大きな感染拡大は減少し、放課後児童クラブも基本的な感染対策をしながらではあるが、行事等も制限されることなく実施した。児童数については、三城地区は待機児童数が多く、年度当初から定員いっぱいとなり、10名を超す児童が退所・キャンセル待ちになる状況となった。そのため、途中退所があってもすぐに新規入所があり、2023年度は11名を受け入れることができた。施設内行事等はコロナ禍前の状況とほぼ変わらずに季節の行事なども実施することができているが、戸外活動や公共施設の利用についてはコロナ禍前の状況までは実施できていない。また、職員配置では充足した配置を行うことで安定した運営ができた。また、不適切な対応に繋がる事案も生じており、虐待防止や健全育成を図るため、職員全体の資質向上を目指し、急遽、虐待防止やアンガーマネージメント、CAREプログラムなどの研修を行った。

3-12 グループホーム元気ハウス

年度当初から入居者11名での満床での開所となった。新型コロナウイルスについては、利用者の感染対策への協力もあり、感染者も最小限で抑えることができ、施設内での感染拡大には至らなかった。また、精神症状悪化による施設外療養も少なく比較的安定して利用者は生活ができた。一方、利用者の高齢化は進んでおり、身体的衰えや内科疾患が目立つようになってきた。利用者には定期健康診断を促すと共に、日々の状態観察を行いながら適切に医療に繋がるように促していきたい。長期利用者は高齢化が進んでいる一方で、近年の新規入居者は若年層が多く、直近の入居者は20代が続いている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、関係機関との会議も再開され対面での情報共有も再開され始め、今後も体験入所なども積極的に受け入れて社会復帰への支援に繋げたい。施設整備としては、施設内の配管修繕（4月）や外壁の雨漏り工事（8月）、職員室の空調機器入替工事（6月）など建物や設備の老朽化による改修工事を行った。

4. 法人本部、全事業所に係る実績

4-1 理事会、評議員会

法人内の意思決定を諮るため、理事会を6回開催、評議員会を2回開催し、法人としての組織統制と牽制を図った。また、監事による事業所訪問を実施し運営状況の確認等を行った。

- ・役員数 評議員7名、監事2名、理事6名
- ・理事会 6回開催

2023年6月1日、6月23日、10月2日、12月20日

2024年2月29日、3月22日

・評議員会 2回開催

2023年6月23日、10月31日（みなし決議）

・その他 監事による事業所訪問

2024年2月8日（いちちょう保育園）、2024年2月9日（あじさい保育園）

4-2 人材育成と人材確保

人材育成においては、管理職（2023年8月20日～21日）及び中間管理職（2023年10月30日～11月1日）のマネジメント等に係る研修、不適切保育を含む虐待防止等に係る研修（2023年4月5日、7月20日）を法人全体で実施した。また、施設長間で実施する「管理運営会議」を継続し、危機管理や財務管理も含めた報告の機会を設け、施設長の研鑽を図った。「管理運営会議」では処遇困難な家庭や子どもの対応、児童福祉に関する社会的動向等、幅広い事案を取り扱うことで、法人としての共通理解を図る取り組みも進めた。なお、事業所間の人事交流は実施できなかったが、大村市内では相互に公開保育を実施し実践的な学びを設ける取り組みを実施した。

人材確保においては、実習受入等も積極的に行ったが、十分な人材確保には至らなかった。ハローワークだけでなく、インターネット求人サイトの活用、合同就職相談会にも出展等を図り、多様な採用活動を進めた。相談会等を通じて、来場者の中から応募があり、少しずつ成果が出始めている。併せて、職員からの紹介による採用もあることから、職員紹介報奨制度を創設し、更なる人材確保を目指す取り組みを開始した。

4-3 情報公開

ホームページだけでなく、SNSを活用した情報発信にも積極的な取り組みを図った。特に、保育事業所では保育活動の様子を保護者等に案内するための配信（YouTube、Instagram等）を行った。こうした取り組みは利用者アンケートで高い評価を得ており、今後も継続したい。

4-4 その他

ICTを活用した人事労務管理は、試験導入から本格導入への拡大検討をしていたが、運用上の課題が残り本格導入に至らず、次年度以降も引き続き取り組みたい。建替を含む大規模改修等については、経年劣化等による修繕対応は適宜行いながら、一部の施設で建替に関し協議を開始した。また、苦情対策は要綱に従い対応し、苦情解決第三者委員の活用までには至らなかった。

【寄付者等】

西日本新聞民生事業団、九州ろうきん、大村市、有限会社尾上運送（大村市） 他

【指導監査】

2023年7月11日 かめりあこども園

2023年7月12日 かめりあ天空の森保育園

2023年10月13日 大村椿の森学園

2023年10月18日 かめりあ上諏訪保育園
2023年11月14日 かめりあ三城保育園
2023年11月16日 グループホーム元気ハウス
2023年11月20日 あじさい保育園
2024年1月25日 かめりあ保育園

※いちょう保育園は書類監査のみ

5. 地域貢献への取組み

乳幼児や児童に係る地域のニーズ、社会問題に幅広く貢献できるような取組みを実施した。また、2023年度も地域貢献活動として「フードバンクシステムによる、ひとり親家庭生活困窮世帯への「宅（食）所」「健康」「相談」総合支援に関する運営」に参画した。

5-1 地域の子育て、児童福祉等に係る連携

- ・地域の子育て、児童福祉等に係る会議への参加

大村市要保護児童対策地域協議会、大村市相談業務担当者会、市川市幼児教育審議会
市川市子ども・子育て支援協会、大崎市子ども・子育て会議、つなぐBANK 他

5-2 地域の子育て、児童福祉の人材育成に係る取組み

- ・教職員等の施設見学及び児童虐待等に係る講義

2023年度大村地区初任者研修（特別支援学校） 他

- ・外部機関の研修会等における講師派遣

第43回全国保育集会、松浦市子どもサポート推進協議会研修会、
大村市子育て支援員研修講座 他

- ・各種実習生の受入（14校／延べ30名）

長崎純心大学、長崎国際大学、長崎女子短期大学、純真短期大学、名古屋女子大学、九州医療福祉専門学校、近畿大学九州短期大学、長崎医療こども専門学校、仙台青葉学院短期大学、宮城誠真短期大学、東京福祉専門学校、東京こども専門学校、共立女子大学、
シルバー人材センター（保育支援員研修）

- ・職場体験、ボランティア、交流等の受入

長崎県立大村特別支援学校西大村分教室、大村市立郡中学校、大村市立桜が原中学校、大村市立西大村中学校、大村市立富の原小学校、長崎県立大村高等学校、大崎市立古川中学校
大崎市立古川東中学校、宮城県立支援学校小牛田高等学園、市川市立塩焼小学校、市川市立行徳小学校、東京福祉専門学校

- ・ 地域との交流
いちょうマルシェ（子育て支援）の実施
- ・ 施設見学等
長崎県こども家庭局、相模原市こども・若者未来局、相模原市児童相談所、報恩母の家、
荏田町民生委員協議会、太陽寮、グリーンサポートハウス 他

5-3 寄稿、発表

- ・ ソニー幼児教育支援プログラム 2023 年度 保育実践論文
「ありふれた毎日の中で起こる子どもたちの科学する心に向き合う」
(あじさい保育園 塚田洋子・村上律子・杉山依子・細川ちひろ)

6. 法人の沿革

- | | |
|-------------|---|
| 2002 年 5 月 | ・ 社会福祉法人カメラリア設立 |
| 2003 年 4 月 | ・ 情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園開設 |
| 2006 年 5 月 | ・ 大村椿の森学園 多目的施設竣工 |
| 2008 年 3 月 | ・ かめりあ児童クラブ開設 |
| 2008 年 4 月 | ・ 大村椿の森学園 定員変更（入所定員を 35 名から 40 名へ変更）
・ 厚生労働省 2008 年度障害者保健福祉推進事業 |
| 2009 年 4 月 | ・ 大村市立竹松幼稚園、竹松保育園の民営化に伴う事業譲渡により
かめりあこども園の事業開始 |
| 2010 年 3 月 | ・ 大村椿の森学園 内部改修工事 |
| 2011 年 4 月 | ・ いちょう保育園開設
・ あじさい保育園開設 |
| 2014 年 7 月 | ・ かめりあこども園新築移転 |
| 2015 年 9 月 | ・ 小規模保育園 かめりあ保育園開設 |
| 2016 年 4 月 | ・ 小規模保育園 かめりあ三城保育園開設 |
| 2016 年 12 月 | ・ 大村椿の森学園 グラウンド竣工 |
| 2017 年 4 月 | ・ 児童福祉法改正に伴い、大村椿の森学園の施設種別名称変更
児童心理治療施設 大村椿の森学園
・ かめりあ富の原児童クラブ開設 |

- ・かめりあ三城児童クラブ開設
- 2018年 1月 ・かめりあ三城第二保育園開設
- 2018年 3月 ・かめりあ多目的棟ビル竣工
- ・大村椿の森学園 学習棟整備
- 2018年 4月 ・かめりあ児童クラブをかめりあ原口児童クラブへ名称変更
- ・かめりあ富の原児童クラブをかめりあ児童クラブへ名称変更
- ・かめりあ児童クラブの新築移転
- ・かめりあ児童クラブ B、C 開設
- ・大村椿の森学園の教育体系が県立大村特別支援学校西大村分教室に移管
- 2018年 11月 ・共同生活援助事業 グループホーム元気ハウス開設
- 2019年 1月 ・小規模保育園 かめりあ三城第三保育園開設
- 2019年 3月 ・かめりあこども園 運動場拡張整備
- 2019年 12月 ・かめりあ天空の森保育園 職員駐車場整備
- 2020年 3月 ・かめりあ天空の森保育園 竣工
- 2020年 4月 ・かめりあ天空の森保育園 開設
- 2020年 8月 ・かめりあ原口児童クラブ 事業廃止
- 2021年 3月 ・あじさい保育園 一時保育事業廃止
- 2021年 4月 ・小規模保育園 かめりあ上諏訪保育園開設
- ・小規模保育園 かめりあ第二保育園開設
- ・かめりあ三城第三保育園をかめりあ三城第二保育園へ名称変更
- 2021年 9月 ・かめりあ天空の森保育園 園庭整備
- 2022年 6月 ・大村椿の森学園 空調機器リニューアル
- 2023年 10月 ・大村椿の森学園 多目的施設改修
- ・かめりあこども園他 照明機器 LED 化
- 2023年 11月 ・かめりあこども園 事務所改修、相談室設置工事
- 2024年 2月 ・かめりあ第二保育園 改修工事
- 2024年 3月 ・大村椿の森学園 浴室リニューアル

以上